

平成30年10月

## 普及活動報告

### ～鳥獣被害を減らすために～ 集落代表から対策の現状を聞き取り (全域：3日)



動物の動きについて解説



班に別れて対策の現状について聞き取り

南丹地域野生鳥獣被害対策チームの今年度の取組である、獣害が多い20集落のカルテ作成と重点5集落の対策検討に向けて、対象集落の代表者研修会を開催しました。(株)野生鳥獣対策連携センターからの「野生鳥獣被害の実態と有効な被害対策」の講演と、集落ごとに対策の現状についての聞き取りをチーム員が行いました。

参加者からは、「電気柵の点検方法について新たな知識が得られた」「シカの被害は減ってはいるが、依然として発生している」などの声が聞かれました。今後は、チーム員で重点5集落での具体的な対策の検討や実践に向けて取組を進めていきます。

場 所 南丹市園部公民館  
出席者数 45名

南丹地域野生鳥獣被害対策チーム員(亀岡市、南丹市、京丹波町、農林センター、南丹局企画調整室及び普及センター担当者で構成)

京都府南丹農業改良普及センター

平成30年10月

## 普及活動報告

### 第7回京都丹波就農サポート講座 ～農業経営について学ぶ～

(全域：3日)



農業経営の改善方法を解説

農業経営の概要と改善方法、簿記記帳の重要性および利益を出すためのポイントについて、実例を踏まえながら普及センター職員が説明を行いました。また、受講生各自の経営についての悩みや疑問点を出していただき、それらに対してコメントしました。



経営の「目指す姿」の重要性を強調

参加者からは、「少ない面積で利益を上げるためには?」「米の販売先について悩んでいる」「現在の課題が分かるようになった」などの声が上がりました。普及センターは、引き続き、受講生のより良い農業経営実現や目標を明確にした経営の開始に向けて支援していきます。

場 所 園部総合庁舎

出席者数 23名

受講生は21～68歳（平均40歳）の30名。南丹管内の実践農場研修生、就農間もない農業者及び障害者就労支援事業所の職員が参加

京都府南丹農業改良普及センター

平成30年10月

## 普及活動報告

### ～台風被害からの復旧・復興に向けて～ 被災した農業者等を対象に、各種事業の 説明会を開催

(亀岡市：9・10・11日)



関心が高く、多くの農業者で会場は満員

亀岡市では台風21号によって、300棟を超えるビニールハウスや農業用倉庫などの被害があったことを受け、9日及び10日は、主に農家組合長など集落代表者に、11日は個別農家を対象に、農業者等復旧応援事業及び農業者等復興支援事業の説明会を行いました。

各日とも参加者は多く、様々な質問が寄せられました。10月19日(金)から3日間は、申請書の書き方や申請書を受け付けるための日を設け、被災した農業者に寄り添った伴走支援を行いました。

場 所 亀岡市役所  
出席者数 170名

京都府南丹農業改良普及センター

平成30年10月

## 普及活動報告

～干ばつや台風にも負けずに良品生産～

「紫ずきん」目合わせ会を開催

(亀岡市：12日)



出荷物の選別状況を確認

今年は干ばつ、台風や大雨の影響により、紫ずきんの着莢数が減るとともに病害が多発し、出荷量が例年の5割程度に留まっていますが、単価は比較的高く推移しています。普及センターからは、莢の厚さにばらつきが多いことから、選別を丁寧に行い、可能な限り出荷するよう呼び掛けました。また、持ち込まれた出荷物が、規格どおりに選別できているか確認しました。

農家からは「箱ごとに選別の程度に差が見られたので、選別を徹底しなければいけない」との声がありました。今後も普及センターは、高品質の紫ずきんの安定生産・出荷に向けた取組を支援していきます。

場 所 JA京都亀岡中部支店  
出席者数 5名

平成30年度の実績（亀岡市）京夏ずきん：栽培面積70a 栽培者数15人  
紫ずきん：栽培面積284.5a 栽培者数35人

京都府南丹農業改良普及センター

平成30年10月

## 普及活動報告



代表から各機械の説明を受ける



新田農園のオリジナル袋



普及センターから報告

### 「畑女子in京都丹波」の研修会を開催 ～新田農園作業場を視察～

(全域：16日)

国庫事業を活用して導入された黒大豆枝豆調製作業場の各機械について、代表の新田尚志氏から説明を聞き、府内最大の出荷量をどのように生産しているのかを目の当たりにしました。また、普及センターからは、京の農林女子ネットワークの第1回便利機能グッズ商品開発検討会の報告と今後の活動予定を説明し、ネットワークへの参加を呼びかけました。

「この施設が出来たことで早く家に帰れるようになり、子どもたちがよろこんでいる」と新田さんの談。自社独自の袋も作成し、新たな事業展開も目指して頑張っている姿にメンバーは刺激を受けていました。

場 所 京丹波町 新田農園集荷場  
出席者数 9名

「畑女子in京都丹波」のメンバーは11名（管内農家20～40歳代の女性）

京都府南丹農業改良普及センター

平成30年10月

## 普及活動報告



農家による畝成形実演



受講生のマルチ設置実習

### 水田畑作における排水対策と緑肥作物の活用方法を学ぶ

#### ～第9回京都丹波就農サポート講座～

(全域：16日)

水稲あとのほ場におけるトラクターによる畝成形作業を見学し、その後、畝溝の掘り下げと、畝にマルチを設置する実習を行いました。後半は、緑肥のすき込みほ場を見学して活用方法を説明するとともに、先進農家の秋野菜のほ場を見学しました。

「農家の実演された畝立て作業技術と丁寧さに感心した」「今回使用した紙マルチは扱いが難しい」などの意見がありました。本講座は、次回の第10回が最終回となります。

場 所 亀岡市旭町

出席者数 26名

受講生は21～68歳（平均40歳）の30名。南丹管内の実践農場研修生、就農間もない農業者及び障害者就労支援事業所の職員が参加

京都府南丹農業改良普及センター

平成30年10月

## 普及活動報告

### ～京かんざしの出荷最盛期を迎えて～ 栽培ハウスを巡回指導

(南丹市・京丹波町：22日)



段まきの状況と成育状況を確認

京かんざしは、例年8月から翌年2月までJAを通じて市場へ出荷されています。今年は、7月豪雨とその後の高温による生育への影響もあり、8月と9月の出荷量は少なくなりましたが、10月に入り例年並となりました。今回、栽培者のハウスを巡回し、2月までの継続出荷が可能か作付状況を確認し、最終は種（10月下旬）までのは種を促すとともに、秋冬季の栽培管理について指導を行いました。

生産者からは、「今年は害虫の発生が多かった」「7月は高温のため発芽率が悪かった」などの声がありました。普及センターは、今後も継続出荷できるよう支援していきます。

場 所 南丹市・京丹波町

出席者数 5名

平成30年度の作付け：栽培農家17戸、栽培面積70a

京都府南丹農業改良普及センター

平成30年10月

## 普及活動報告



所長から修了証書を授与



関係機関の立会者とともに記念撮影

### ～地域の担い手の誕生～ 京都丹波就農サポート講座修了式を開催

(全域：23日)

最終講義（水稻、酒米）に引き続き修了式を開催し、出席基準を満たした29名に対して、修了証書を授与しました。修了生は各市町及びJA関係者からの激励の言葉を受けた後、半年間の受講の感想や今後の営農に向けた抱負を、各自発表しました。

修了生からは「講義内容が分かりやすかった」「営農意欲を駆り立てられて、とても勉強になった」等の感想が寄せられました。今後も普及センターは、修了生の円滑な就農や経営の確立に向けて支援します。

場 所 園部総合庁舎

出席者数 42名

今年度の講座は、座学（主要品目の栽培技術・土壌肥料・病害虫等）と実習（現地ほ場にて現役農家による経営解説や鳥獣害対策等）を実施（全10回）。受講者30名のうち、基準回数を受講した29名を修了認定。

京都府南丹農業改良普及センター



平成30年10月

## 普及活動報告



普及センターから耕種概要を説明



生育状況を確認しながら活発に意見交換

### 小豆機械化実証ほの来年度試験に向けて ～試験を実施した生産者とともに生育状 況を確認～

(亀岡市：24日)

耕深が従来より浅いため高速播種が可能で、雑草発生の抑制が期待できる「トリプルエコロジー」による播種ほ場や、除草カルチによる条間除草を行ったほ場などを順に観察し、来年度の試験実施時の改善点について意見交換を行いました。

収穫期を前に、試験を実施した関係者とともに生育状況や除草効果を確認し意見交換することで、来年度の試験計画に反映させる技術内容が明確となってきました。11月下旬には、収量を測定しながら試験ほ場の収穫を行う予定です。

場 所 亀岡市馬路町・河原林町

出席者数 14名

亀岡市の小豆機械化栽培面積は約50ha

京都府南丹農業改良普及センター